



TITLE:

七夕

AUTHOR(S):

改發, 香塙

CITATION:

改發, 香塙. 七夕. 天界 1939, 19(220): 291-291

ISSUE DATE:

1939-07-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/167853>

RIGHT:

野に於いて”といふ條件付きでのみ、尊敬されるべきであると同時に、“素人”^{アマチュア}といふものを、決して玄人は侮つてはならない。素人は、視野の廣い點に於いて、専門に囚はれない自由人である點に於いて、又、判斷力の正しい點に於いて、研究對象と社會とに對して常に謙虛な態度を有つ點に於いて、玄人の有ち得ない美點が非常に多い。一體、本來から言へば、學術の研究などといふことは、こうしたアマチュアらしい態度によつて始めて實現される筈のものであつて、むしろ、偉大なる素人の下に於いて、玄人が働いてこそ、研究の最も健全な發達が豫期されるのである。

こういふ見地から見ると、大局から考へて、我が日本の、——たゞに天文學界のみと言はず——一般の學界は猛省すべきことが多いやうに思ふ。殊に我が國の學者の大多數は官吏であり、官吏であるが故に、豫算に縛られ、服務規律に縛られ、熱意を缺き、創造力に劣り、そのくせ、氣位が高く、消極的で、自己の榮進のみに腐心する徒輩が多い。之れを外國の學者と比べて見ると、外國では學者は多く自由人であり、何ものにも囚はれず、常識に富み、研究を心から楽しみ、積極的で、研究のためには、寢食を忘れ、自己の榮達や、社會的名譽を顧みないといふ勞働氣中に生きてゐる。即ち、換言すれば、我が國の學者は多く官僚的乃至俗吏的であるに對し、外國の學者らしい學者中には、超俗的で、自由人型で、アマチュアと一脈相通する心意氣を有つてゐる人が多い。國際的見地から見て、評判の割合に、我が國の學界が奮はない原因が此うした點にあると思はれる。

此等の點、大に考へなければならない。(七月十日)

★ 七 タ ★

今 夜 織 牛 會	交 情 河 漢 邊
風 來 侵 彩 幌	月 動 落 花 筵
盛 俎 紫 珠 果	寫 箋 金 玉 篇
仰 天 人 乞 巧	祭 祀 二 星 前